

[翻 訳]

『スペクテイター』(8)

——第66号から第75号——

門 田 俊 夫

第66号 1711年5月16日(水曜日)

【スティール】

娘は子供の頃からギリシャ風ダンスに親しみ、今でもしなをつくることに執心で、いかがわしいことを目論んでいる。(ホラティウス)¹⁾

以下に掲げる二通の手紙は、真に迫った感じは伺えないものの極めて重要なテーマについて触れています。

観察者殿

拝啓

貴方からの助言を戴きたく、ペンをとった次第です。実は、私は親戚の娘のことで少々頭を痛めているのです。この娘は最近田舎からロンドンに出て来まして、私が面倒を見ているわけです。彼女は大層な美貌の持ち主なのですが、これほど未熟な女性もまた数少ないと考えられます。彼女はいわば生まれたままの未完成な状態で、何ひとつ磨かれないまま私の元にやって来たのです。この娘を見ると、私はいつも貴方が述べておられた「ベル・サヴェッジ」のことを思い出します。²⁾観察者殿、私は洗練された話し方や素敵な身

1) ホラティウス『頌詩』3. 6. 21-24.

2) 第28号参照。

のこなし方とはどんなことかこの娘に分からせたいと考えています。何卒お力添えをお願いします。といいますのは、現在、この娘は話し方も身のこなし方もまったくお話にならないのです。彼女には自己を表現する、つまり自分の意向を知らせる手だてというものは言葉しかありません。目はただ単に物を見るための役にしか立っていない、めくばせといったことは全く知らないのです。こういった件で助言を戴ける方としては、貴方ほど適任者はいないと私は考えています。私は、案じていないときにため息をつく方法、満足していないときに微笑む方法を教えるのにこの2ヶ月間費やしてきました。その結果はといいますと、お恥ずかしい限りですが、彼女はいっこうに向上していません。さらに、歩き方という、まるで1歳の子供のようです。歩き方というのは、それが整然としていても、ゆったりとしたものであれば、まるで音楽に感動するように、言うに言われぬしとやかさを与えてくれるものです。そして、その所作は一種の解放された姿であって、いわば、レチタティーヴォ風のダンスと言えるもののなのです。だが、私はこれが出来ないことで彼女を責めることが出来ません。なぜなら、彼女は歩くことは単なる場所の移動としか思っていないからです。赤面についても、彼女が赤面したときの振舞い方を知っていれば、そして赤面することで顔色が明らかにそこなわれるようなことにならなければ、大目に見ることが出来るでしょう。

貴方は経験豊富で洗練されたしつけとはどういうことかよく分かっていらっしゃる方だとの評判です。従いまして、この娘を向上させるためのご教示を戴けるものと考えます。私にご厚意を寄せて戴けます場合は、結婚友愛組合の会員でありますこの娘の扱いに関しましては、今後とも貴方にご相談いたしたく存じます。教育はこの娘の財産となるのですから、貴方には何ひとつ隠し立てはしないことに致します。

敬具

セイリーメン

拝啓

手紙をしたため貴殿に出すようにとセイリーメンから申し付けられましたので、失礼とは存じますが、よろしく申し上げます。実は、たまたま彼女と私は少し意見を異にするのです。無骨者の私は、この若い娘が甘やかされて駄目になってしまうのではないかと危惧しています。どうか、観察者殿、「洗練されたしつけ」ということで貴殿のお考えをお聞かせ下さいませんか。と申しますのは、私の考えでは、「洗練されたしつけ」は例の「立派なしつけ」というものとは随分違っているようです。

敬具

子供の教育で私たちがよくやる間違いは、娘の場合は容姿の面を大切にすることあまり、知性のことは軽視し、息子の場合は知性に磨きをかけることに熱心なあまり、体のことをないがしろにすることです。その結果、兄の方は部屋に入っていくのをこわがっているのですが、妹の方は集いの場でちやほやされるといったことになります。こういったまずい子育てが原因で、男性は人生の半ばを過ぎてもまだ人から顧みられることがなく、女性は若い盛りにすでに時代遅れになっているために顧みられることがないといったことになります。男の子のことは別の機会に譲ることにしまして、ここでは女の子の場合に話を絞ることにします。我が女性の読者のみなさんはここ数日私の言っていますことが分かっていなく、紙面に関心を寄せていないと訴える投書を何通か頂いていますので、私としましてはなおのこと本日のテーマについて力を注ぎたいと考えています。女の子は、人生について何ひとつ分からない段階で、無事に乳母の手から離されると、今度はダンス教師の手に委ねられます。そして、首にカラーを巻き付けられるといった狂気じみたやり方で³⁾、異様なまでの行儀の大切さを教え込まれ、頭の向きとか胸の膨らませ方とか全身の身のこなし方といったこまかな方法を押付けられます。歩き方、

3) 背中に幅20センチ、長さ25センチ程度の鋼の板を入れて姿勢を矯正した。

見方、動き方が歪んでいると、結婚相手は見つからないと脅迫されながら、仕込まれるのです。これは若い女性に、自分とことあるたびに口にされる将来の夫との間にはどんなことになるのかと、妙な想像力をかきたてさせることになります。かくして、若い女性は人生の幸、不幸を決めるに違いないと思われる容姿の磨きに全精力を投入することになります。そして、彼女は当然、自分に十分な背丈があれば、何事につけ自分は十分分かっているのだと思い込みます。娘を感じの良い人物にするのが両親の主目的となり、両親はそのことに対してあらゆる犠牲を払い、その達成に向けて全精力を傾けることになります。現在多数の媚びを売る女がいるのは、こういったよく見られる両親の愚行のせいなのです。寄稿者の手紙に述べられている未熟な娘の扱い方について助言を与えるというとき、私は以上のようなことを考え当惑を覚えます。だが、極端に走らず中を取った方法がないわけではありません。つまり、若い女性の容姿の磨きは無視するわけにはいきませんが、それ以上に知性の鍛練を重視するという方法です。こうすることで、知性は体の欲することに従います。つまり、体は知性の高潔さを示すことになるのです。

クレオミラのダンスにはこの上なく優雅な身のこなしが伺えますが、彼女には純真で無邪気な想いが備わっていることで、眼差しは抑制されているため彼女を見る人たちには称賛と好意を起こさせ、淫らな望みや放縦な想いを抱かせることはありません。要するに、知性と体を同時に向上させることがこの件でのまっとうな方法というわけです。そして、可能ならば、身振りを考えに従わせ、考えを身振りに従わせないことです。

第67号 1711年5月17日（木曜日）

【バジエル】

彼女は憤ましきとは不釣り合いなほど優雅な踊りをする。

（サルスティウス）¹⁾

1) サルスティウス『カティリナ戦記』25. 2. カティリナ（108-62 B.C.）はローマ共和制末期の政治家。

ルキアノスは、ある対話で、ダンスを愛好し、舞踏会の常連となっている友人をたしなめる哲学者を紹介します。²⁾ たしなめられた友人は、お気に入りの気晴らしであるダンスの擁護をします。ダンスは元々女神レアが考え出したものであって、ダンスのお陰で、ユーピテルの命は残酷な父サートゥルヌスの手に掛らずにすんだのだと言います。引き続き彼はダンスはいつの時代でも高貴な人々に受け入れられてきたのだ、そしてまた、メーリオネースは素晴らしい踊り手であり、その稽古で身につけた優雅さと敏捷さによって、ギリシャ軍、トロイア軍双方の中にあって際立った存在だったのだとホメーロスは述べていると言います。³⁾

彼はさらに、ピュロスが名声を博したのは、ほかでもない彼の名前の付いたダンスを考案したお陰だったのだ、また、ギリシャで最も勇敢だったスパルタ(ラケダイモン)人はこの気晴らしを大いに奨励し、(フランスのブランルという踊りに似た)彼らの踊りホルムズを全アジアに知らしめたのだと付け加えます。⁴⁾ さらに、テッサリアには最高の踊り手を称えて建立された彫像が現存しているのだとも言います。おまけに、彼は哲学者に向かってどうして自分が非常に崇拝していると認めているホメーロスとヘシオドスに異論を唱えることが出来るのか不思議に思うと言いました。ヘシオドスにいたっては、剛勇とダンスを同列に置いて考え、「神々はある人物には剛勇を、またある人物にはダンスの素質を付与したのだ」と語っているのだと言います。⁵⁾

彼は、最後に、(アポローンの考えでは、最高の賢人だった)ソクラテスはほかの何にもましてダンスを高く評価していただけでなく、後年ソクラテス自身もダンスを習得したのだと言います。⁶⁾

2) ルキアノス『ダンスについて』8-25. ルキアノスは2世紀のギリシャの諷刺作家。

3) 『イーリアス』13. 249; 16. 617-18.

4) ホルムズは若い男女による輪舞のひとつ。ブランルはコティヨン(2から8人で踊る活発なダンス)に似たフランス舞踏の一種。

5) バジエルの記述には混乱が見られる。ルキアノスがここで引用しているのはヘシオドスではなく、ホメーロスである。

友人をたしなめようとしたこの気難しい哲学者は、友人からの以上の擁護の弁、さらにその他数名の権威者の意見に影響を受け、友人の意見に宗旨替えし、今度舞踏会に出掛けるときは自分も連れて行って欲しいと言うのです。

私は喜んで偉大な人たちの実例になりたいと思います。つぎの手紙を取り上げますことは、この私の考察に相応しいのだということを十分示していると考えます。この手紙はある裕福な商人が「移り変わり」について記したもののと思われます。

拝啓

私は長年に渡って刻苦勉励に務め、私自身は教育には全くの門外漢ですが、子供たちには何不自由のない教育を施すことが出来るだけの財力を手にしています。16歳になる長女は、しばらく前からシティーのダンス教師リゴドン氏⁷⁾の手ほどきを受けています。昨夜、私は娘と家内に説得されてリゴドン氏が主催する舞踏会に出掛けました。正直言いまして、私はこれまでそのような場所に出掛けたことがありませんでしたので、リゴドン氏のいう「フランス風ダンス」の部では大層満足もしました驚きもしました。若い男女数名が登場し、手足の動きは、きれいに曲に合わせた見事なものでした。フランス風ダンスの部が終わると、今度は「カントリーダンス」⁸⁾を始めました。カントリーダンスにも、感じのよい点や、思いますに、若者の教育のために賢人が組み立てた様々な象徴的な一連の旋回運動が伺えました。

私が気づいたものに、いわゆる「リス狩り」⁹⁾というものがありました。こ

6) クセノポン『饗宴』2. 17-20. クセノポン (431-?355 B.C.) はソクラテスの弟子で、ギリシャの軍人・政治家。

7) イタリアないしプロヴァンス起源の2人で踊る活発で複雑なダンス。

8) イングランドの地方で生まれたダンスの一般的な呼称。大勢のカップルが二列に向かい合って踊る。フランスに持ち込まれコントルダンス (対舞) と呼ばれた。

9) 「猫とネズミ」とも呼ばれる野外で行なわれる一種の追いかっこのようなダンス。

れは女性が逃げ、その後を男性が追いかけるのですが、女性が振り返ったら今度は女性が男性の後を追うことになります。このダンスは女性に謙虚さと思慮深さとはどんなことであるかを教えるのだと思います。

ところで、制度というものはどれほど素晴らしいものであっても、腐敗が免れないように、この気晴らしにもゆゆしき悪弊が忍び込んでいるのだとお知らせしないわけにはいきません。私は私の娘がとてもなれなれしく若者たちに手を取られているのを見て当惑したのです。私の娘にそんなことは思いもよりませんでした。彼らはしきりに「セッティング」という下品でみだらなステップを踏みました。これは上手くお伝えできませんが、ちょうど「背中合わせ」の逆のようなものです。最後に、ある生意気な若者がフィドル奏者に「モル・ペイトリー」という曲を指示しました。¹⁰⁾そして、2、3回跳ね回った後、パートナーの所に走りよって腕を絡ませ、パートナーを床すれすれに巧みに振り回しました。そこで、最下段のベンチに腰を掛けていました私には、パートナーのことが、貴方にお知らせするには相応しくないところまで見えました。そんな大それたことはもはやそれ以上私には耐えられませんでした。そこで、私の娘がちょうどこれから風車にされそうになったそのとき、私は中に割って入り、娘の手を取り家に連れ帰ったのです。

私はまだボケてしまうほどの歳ではありません。ダンスというものは最初は若者たちにしっかりした分別をつけさせるために考え出されたものと思います。その点では私はダンスに異議は唱えませんが、以上述べましたようなことは私は認めるわけにはいきません。貴方が現在この件につきましてどうお考えになれるのかは分かりませんが、貴方があの場に同席なさっておられたら、思索に値することをご覧になられたのは間違いのないことだと確信している次第です。

敬具

10) この曲については、ウィリアム・チャペル『往年のポピュラー音楽』(1855-9) 参照。

確かに我が寄稿者が娘さんの扱いで少々不機嫌になられるもっともな理由がおありのようですが、もしこの方が「キスダンス」¹¹⁾をご覧になられたら、不機嫌さはその程度ではおさまらないのは確かだと思われます。ウィル・ハニコームが言うには、このダンスではほぼ1分間は女性と唇を合せざるを得なく、曲は無視して全く調子はずれのダンスをすることになるそうです。

私にはダンスに対する最終的な意見を述べることは出来ませんが、少なくとも、振舞いや均斉のとれた身のこなしに役立つダンスは、絶対に必要というわけではないにしても、非常に有効なのだというカウリー氏の意見に賛成です。¹²⁾

私たちは普通第一印象で人々を判断してしまいがちで、後からその人のことを見直すことはほとんどありません。このため、人は他人と接するとき不愉快な点や無作法な点は少しもなく、部屋に入っていくときには魅力的な登場を果たしたいと考えます。

立派なしつけの法則に対する適度な知識さえあれば、自信がつきどんな人たちとでも気楽に交際が出来るのだと申し添えておきます。私は、この知識がないために、ある教養教育の教授がご婦人と顔を合せてまごついているのを、また、非常に優秀な数学者が彼のために乾杯が行なわれているとき立つべきか座ったままでいいのか決めかねているのを見掛けたことがあります。

ダンス教師というものは、立派な紳士諸兄が教えることに何か独自のものを、つまり、彼ら自身が全く知らないことを付け加えないと、育ちの良い人物というよりも単にきざな洒落者に過ぎないのだということを銘記しておいて当然なのです。

カントリーダンスに関しましては、確かに、ここで醸し出されます異性間のなれなれしさが、時によって、非常に危険な結果をもたらすことがあると

11) クッションダンスとも呼ばれ、かつて結婚式に行なわれていた円舞。

12) カウリーは「実験的哲学のための提案」(1661)で生徒の気晴らしとして「天氣の悪い時には、(度を過ぎるとよくないが)優美な身のこなしを覚えさせる程度にダンスを教えることは結構なことだ」と述べている。

いうことを認めないわけにはいきません。私は、音楽や身振りの迫力や絶えず目の前で踊り、完璧な手足の動かし方をしているハンサムな若者の魅力に感動しないほど心の冷たい女性は数少ないと思っています。

だが、カントリーダンスは特別に我が国で考え出されたものですし、また、誰もがこのダンスは大体熟達していますので、私はこのカントリーダンスは黙認します。どちらかといえば、カントリーダンスは、しばしば宿の長女のパートナーとなっています私のように、人々は無邪気に取り組めるのではないかとと思っています。

後 記

評判を呼んでいる絵画のコレクションがつぎの金曜日に販売に供されると聞きました。そしてつぎの手紙から判断しますに、絵画を収集した人物は高雅な趣味の持ち主のようですから、私は読者には広告の埋め草と考えて戴けるものと期待しまして、その手紙を公表し、この人物の支援をしたいと考えます。

コヴェント・ガーデン広場スリーチェアーズにて

1711年 5月16日

拝啓

貴殿は何事につけ公表なさるのを本分となさっておられる観察者とお見受けしましたので、貴殿に照会し貴殿の賛同を得るべきだと考えた次第です。小生は展覧会の準備をするためにヨーロッパを旅し、訪れました各国それぞれで称賛されています作品を持ち帰りました。貴殿は紙面で幾度となく目の喜びに勝る喜びはないと明言なさっておられます。この展覧会は、貴殿がこれまでにご覧になられたものに勝るとも劣らない素晴らしい作品を提供でき、必ずやご満足戴けるものと確信しています。もし貴殿が、城郭、森、廃墟、美人、上品な紳士といったものがお気に入りでしたら、つぎの金曜日の競売会場にお出で戴けますと、大いに満足戴けることは間違いありません。

一目見て戴けますと、観察者殿には心地よく、また他の方にも大きな楽しみを与えることが出来るものと思います。従いまして、こういった案内状をお送りしますことをご容赦戴きたいものと思います。

敬具

グラハム¹³⁾

第68号 1711年5月18日（金曜日）

【アディソン】

私たち二人だけがその住人なのだ。(オヴィディウス)¹⁾

普通は話し相手の数が増えれば増えるだけ、様々な考えや話題が展開されると思われがちですが、実際には、人数が多くなると、会話はまとまりがつかずとりとめのものになってしまいます。大勢の人たちが集まって話をするとなると、概して形式的なことや一般的な考えが中心となります。集まる人の数が増えれば増えれば、通例、天候や流行やニュースやその他一般的な話題となります。それに対して、クラブとか友人の集まりの場合には、話はより具体的になり、くつろいだ雰囲気では話がはずむこととなります。ところが、最も開放的で有益で率直な話は、何と言っても親友との話ということになります。この場合は、感情や思考のおもむくままにまかせ、内密にしていることも明らかにし、考えを率直に述べ、心の中にあるものをすべてさらけだして、友人の意見を求めることとなります。

友情は喜びを倍加させ悲しみを分つことによって、幸せを増進させ惨めさを和らげるという考えを最初に口にしたのはタリーでした。²⁾ キケロ以降友

13) ティントレット、ルーベンス、ファンアイク、ブリュゲルなどなどの絵画の即売会がコヴェント・ガーデンで18日の金曜日に開催されるとの広告が第64号、65号、67号、68号に載った。

1) オヴィディウス『変身物語』1. 355.

2) キケロ『友情論』6. 22. タリーとはキケロのこと。

情について文章を残した随筆家はすべて彼のこの考えを踏襲して来ました。サー・フランシス・ベーコンはその他の利点、つまり、彼の言う「友情の効用」について見事に語っています。実際、道德のテーマをこれほど巧みに扱い、また、余すことなく論じているものはほかに見当たりません。³⁾ 友情について語られたものはいろいろあるのですが、私は古代の著者の著述からいくつか引用したいと思います。この書は、もし孔子のような人物、あるいは、誰か名高いギリシャの哲学者の名前で出版されていたら、現代の才人たちからは現存する最も素晴らしい道德論だとみなされたことでしょう。私が念頭においていますのは、「シラクの子イエスの知恵」⁴⁾ という題名のついている聖書外典中の文書のことなのです。この著者は友人をこしらえるには親切で優しく振舞う必要があるのだということを実に巧みに述べています。そしてまた、最近亡くなったある優秀な著者が自分の考えとして述べたのですが、「私たちは好意を寄せてくれる人を大勢もつべきだ」という指針を打ち出しているのです。「感じの良い言葉づかいをすれば友人が増えるでしょうし、丁寧な喋り方をすれば優しい言葉が返って来るものです。大勢の人たちと仲良くなりなさい、だが、千人に一人の相談相手は一人確保しておきなさい。」彼は友人を選ぶことに関して非常に慎重な警告を発しているではありませんか。また、彼は（私なら気性というのですが）あてにならない利己的な友人の振舞いについて、なんと説得力のある言い方をしていることでしょう。「もしあなたが友人が出来たら、あわててその人を信用するようなことはせずに、まず最初は試しなさい。というのは、中には、自分の必要性から友人になり、あなたが困ったときには離れていく人がいるからです。憎しみと不和が生じると、あなたを非難するようになる友人もいます。また中には、食卓では気の合った友でも、あなたが悩み苦しんでいるときには去っていく人もいます。その一方で、あなたが順風のときには、あなたと一心同体でもあるかのよ

3) 『随筆集』(1625) 第27章「友情について」。ベーコンはキケロの友情論を参考にした。

4) 「集会の書」6. 5-17.

うに振舞い、厚かましくあなたの召使となる人もいます。そんな人は、あなたが落ちぶれると、あなたに背を向け、あなたの前から姿を消してしまうことでしょう。」つぎの文章ほど確固としておりまた辛辣な指摘はほかには見当たらないでしょう。「あなた自身とあなたの敵との間に一線を画し、あなたの友人のことを気にかけるのです。」つぎの文章では、彼は前述の二人の著者が詳細に述べている友情の効用について語っています。これは普遍的な友情への賛辞となっており、非常に崇高であるとともに大変正鵠を射ているものです。「忠実な友は強力な砦となります。そういった友を持っている者は、宝を持っているのと同じことなのです。忠実な友に代るものはありません。友はなにものにも代え難い非常に貴重な存在です。忠実な友は人生の薬です。神を畏怖する者は友を持ちます。神を畏怖する者は誰でも心からの友情を降り注ぎます。彼がそうすれば、(友人である)彼の隣人もまたそれに応えるでしょうから。」本来私たちの人生につきものの苦痛や苦悩を癒す友情の効用について語るときに、友が人生の薬になるのだという表現よりも気に入った言い方に私は出くわしたことはありません。そして、最後の文の徳の高い人には天恵として自分と同じように徳の高い友人が出来るのだという言い回しには大いに満足しています。異教の作家に大いに称賛されてきたこの著者には、「古くからの友人を見捨ててはならない。なぜなら、新しく出来た友人は旧友とは比べものにならないからである。つまり、新しい友は新しいワインのようなものであり、ワインは古い方が味わいが深いからである。』⁵⁾という言説があります。彼はまた、非常に巧みな引喩と洞察力でもって、友情の断絶と違背について語っています。「鳥に向かって石を投げると、鳥は脅えて逃げ出します。友を厳しく非難すれば、友情は壊れます。友と不和になっても絶望してはなりません。友情が蘇るかも知れませんから。友に逆らうようなことを言っても、恐れてはなりません。なぜなら、それが友が離れていく原因となる非難や傲慢や秘密の暴露あるいは裏切り行為でさえなければ、和解の

5) 「集会の書」9. 10.

チャンスがあるかも知れませんから。』⁶⁾この著者による以上のような指針およびその他の箇所に、ホラティウスやエピクテトスの道徳的な著述の中で非常に高く評価されているお馴染みの事例や引例を認めることが出来ます。つぎに掲げる文章には、これもまた同様に友情について書かれているのですが、この種の實に見事な事例が伺えます。「秘密を暴露する者は、信頼をなくし、真の友は出来ない。友を愛し友に誠意を見せるのです。秘密を漏らす場合は、それ以上友であることを期待してはなりません。敵を滅ぼしたのと同じように、友の愛を失ったのですから。それはちょうど鳥を手放したのと同じことなのです。友は二度と帰ってくることはありません。それ以上友の後を追っても無駄です。友はすでにあたかも罌から逃げ出した牡鹿のようにはるか彼方に去ってしまっているのです。感情を害する程度なら、これは修復は可能です。悪口の場合も和解の可能性はあります。ですが、秘密の暴露に関しては、これはもう修復は不可能です。』⁷⁾

親友を作る資格はいくつかありますが、この賢人は重要なものとして、極めて至当な意見ですが、変節しないことと誠実さを挙げています。これ以外に、高潔、知識、分別、年齢と財産が掛け離れていないこと、そして、キケロのいう愛想の良さ⁸⁾があがっています。これについて私の意見が求められるとすれば、こういった資格のほかに、落ち着いたむらのない振舞いといったものを付け加えるでしょう。友情関係を結んでも、相手の正体は1年付き合ってみないと分からないものです。つまり、付き合っているうちに、親しく付き合い始めたときには分からなかったあるいは思いもよらなかったようなそれまで潜んでいた不快な点が突然見えてくることがあります。あるときにはとても感じよく、またあるときには不快で嫌悪すべき人物となる人たちがいます。マルティアリスはこの種の人物のことを、つぎの警句に見られるように、とても巧みに描いています。「あなたはありとあらゆる気質を備えて

6) 「集会の書」22. 20-22.

7) 「集会の書」27. 16-21.

8) 『友情論』18. 66；24. 89.

おり、真面目なときもあれば陽気なときもある。あなたは非常に怒りっぽく短気でかつ愉快な方である。機知に富み、陽気であるかと思えば、またこの上なく癩癪持ちでもある。あなたとの暮らしは考えられないし、そうかといってあなたのいない暮らしもまた考えられない。』⁹⁾このようなあるときには愛想が良く、またあるときには不快になる人物と友人関係を結ぶのはとても不幸なことです。誰だってすぐれた精神状態になるときがあるのですから、その状態になったときに、その気分をいつまでも失わないように持続させるのを、賢人の重要な課題のひとつとするべきです。

第69号 1711年5月19日（土曜日）

【アディソン】

バッカスの恵みのある地もあれば、ケレスの恵みのある地もある。

また、幸福な果実をつける木々に恵まれた地もある。

さらに、招かれざる草に覆われた地もある。

例えば、トゥモールスは黄色いサフランを戴き、

インドには黒檀と白い象牙があり、

温暖なイドゥーマエアでは香しい涙を流す。

ポントゥスでは灰黄色の石を産出し、

むきだしのスペイン人は戦争用のはがねを鍛える。

エペイロスではエレアの戦車を改良し、(勝利を期待して)

軍馬を疾駆させる。これが最初の契約なのである。

つまり、こういったことは、造物主の大義に基づいて、

造物主がそれぞれの地に課したおきてなのである。

(ウエルギリウス)¹⁾

私にとりまして、ロンドンで足繁く出掛けても飽きない場所といえ、何

9) 『警句』12. 47.

1) ウェルギリウス『農耕詩』1. 54-61.

と言っても王立取引所となります。²⁾非常に多くの我が国や外国の人々が大勢集まって商いをしている様子、そしてまた、このロンドンをいわば世界の商業の中心地にしている様子を目にすると、イギリス人である私は、密かな満足感と若干の虚栄心をくすぐられます。私は盛況中の取引所を多数の国々が代表者を送り込んでいる大掛かりな評議員会と考えています。仲買人はいわば政治世界でいえば大使のようなものです。彼らは協議をし、条約を締結し、海や大洋によって分離されている、あるいは、大陸の僻地に住んでいる豊かな人々相互間の良好な関係を支えるのです。私はしばしば日本人とロンドンの参事会員との間の争いが調停されたのを聞いて、また、ムガル帝国の家臣がモスクワ大公国の家臣と同盟を結んでいるのを見て、喜ばしく思いました。私は歩き方や言葉が違うので識別がつくのですが、こういった多くの通商大臣の中に紛れ込むのを無上の楽しみとしています。アルメニア人の一団と肩が触れ合うこともあれば、ユダヤ人の人込みの中で途方に暮れるときもあり、オランダ人の集団に紛れ込むときもあります。その時々で私はデーン人になったり、スウェーデン人になったり、フランス人になったりします。どちらかといいますと、私は、どちらの国の方ですかと尋ねられて、自分は世界市民だと答えた昔の哲学者³⁾と同じようだと思っています。

-
- 2) 最初の建物は1569年に完成したが、ミエージュが「この種の建物としてはこの世で最も立派である」と言った王立取引所は、ロンドン大火後の1669年に再建されたもので、エドワード・ジャーマンが設計を担当した。この建物は1838年の火災で再び焼失したが、その当時のものは、南がコーンヒル、北がスレッドニードル街に面した中庭のある2階建ての四角形の建物だった。舗装された中庭の周囲にはアーチ状の回廊が巡らされ、壁間にはノルマン・コンクウェスト以降の歴代の王の彫像が飾られていた。ミエージュによると、「中庭中央には、グリーンリング・ギボンズの制作した、月桂冠の冠をつけ、古代ローマ皇帝の衣装を身につけたチャールズ2世の彫像がある。階上には歩廊があり、200の店舗が並び、特に装身具などえりすぐりの商品が扱われている。さらに階下のポーチコ沿いならびに地下にもその他の商店がある。約1200坪たらずの敷地に立っているこの建物全体は、建築費が5万ポンドかったが、年間4千ポンドの利益を生み、世界で最も富んだ場所となっている」とのことである。

私は大勢の人たちがせっせと働いている場所を頻繁に訪れますが、私のことは友人のサー・アンドリュー以外誰にも知られていません。サー・アンドリューにしても、人込みの中を動き回っている私を見て微笑みかけるだけで、話し掛けてくることもなく、見て見ぬふりをしてくれるのです。実は、もう一人顔だけ顔を見知っているエジプト人の商人がいます。この商人には以前私のグランド・カイロ行きの資金を送ってもらったことがあります。私は現代コプト語つまりエジプト語を知りませんので、私たちが出会っても、互いにお辞儀をし、作り顔をする程度で、それ以上には進展しません。

こういった賑やかな商いの現場を見ていると、私は実に様々な心からの確かな楽しみを覚えます。私は人間がとても好きですから、大勢の人たちが栄え幸せにしている光景を目にすると、自然に喜びがあふれ出て来ます。人前であってもうれし涙を抑えられなくなるほどなのです。そういう訳ですので、こういった人たちが個々の財産を増やしている様子、そして同時に公共財を増進させている様子、言い換えますと、我が国に足りないものを入手し、余剰のものを外国に売ることによって自分たちの家族のための財産作りをしている様子を目にして私は大いに満足するのです。

造物主は、人間を相互に交わらせようとして、その恵みを世界各地にばらまくのに特別な注意を払っているように思われます。⁴⁾地球上の様々な人たちは、共通の利益によって、相互に依存しあい結束することが可能となるのです。ほぼすべての人たちがそれぞれ何か固有のものを生み出します。食物に恵まれる国もあれば、ソースに恵まれる国もあります。ポルトガルの果実の不足分はバルバドスの果実で補います。キニーネはサトウキビの髓で口当たりをよくします。フィリッピン諸島は我がヨーロッパのスープに香料を提

3) ディオゲネス・ラエルティオスによると、この哲学者は、犬儒学派のディオゲネスだった。

4) 類似の所説については、ジョン・ケアリー『イングランドの貿易事情について』(1695, ブリストル), ならびにジョン・ボレクスフェン『貿易, 貨幣, 信任状について』(1697) 参照。

供してくれます。貴婦人の衣装一式⁵⁾でも、多くの場合、世界各地の製品からなっています。マフや扇もそれぞれ出所が違います。スカーフは熱帯から、ティベット（毛皮の肩衣）は寒帯からやってきます。綾織のペティコートはペルーの山から、ダイヤのネックレスはヒンドスタン（インド北部）の内陸部から届きます。

我が国を天然資源という点で考えますと、恵みも利点もなく、何と不毛で居心地の悪い場所が我々の分け前となっていることでしょう。自然科学者たちによれば、我が国では本来、果実といえば、野バラの実、サンザシの実、どんぐり、ヒッコリーの実の類しか生長しないということです。つまり、我が国の気候では、人工の手を加えなければ、リンボクの実が精一杯で、プラムにまでは届かず、リンゴも豆粒程度のものしか出来ないということです。メロンや桃やイチジクやアプリコットやチェリーもまた、我が国には元々無かったもので、以前に輸入され、我が国の庭に馴染まされたもののなのです。こういった果実にしても、農園主が全く顧みることなく、我が国の気候風土のなすがまましていたら、すべて駄目になって大地のかけらにしかならないでしょう。貿易によっても、我が国の植物界は現状以上には豊かになりません。我が国の船には世界各地の収穫物が満載され、食卓には香辛料やオイルやワインが並びます。部屋はピラミッド状の磁器で占められ、漆細工で飾り立てられています。朝の紅茶一杯は遠隔の地から届き、アメリカの薬で体を治し、インド製の天蓋のもとで休息を取ります。友人のサー・アンドリュースはフランスのブドウ園を我が庭、香料諸島モルッカを我が温床、ペルシャ人を我が絹織商、中国人を我が陶工、と言います。造物主は、確かに、我が国には生活必需品をほんのわずかしき与えてくれていませんが、私たちは、貿

5) アディソンはタトラー紙第116号で、「女性というものは、毛皮、羽毛、真珠、ダイヤ、金、絹で飾り立てる奇麗で神秘的な動物だと思う。オオヤマネコには毛皮を提供させて、ティベットとするし、孔雀やオオムや白鳥にはマフを提供させる。さらに、海からは貝殻を、山からは宝石を提供させるし、その他ありとあらゆる自然界の分け前を自分の装飾のために利用するのだ」と述べている。

易のお陰で、実用的な物だけでなく便利な物や装飾品までどんなものでも手に入るのです。

以上のような理由から、国家にとって商人ほど有益な構成員はほかにはいません。商人たちは相互に尽力し、自然からの授け物を振り分け、貧しい者たちに仕事を、富める者たちにさらなる富を、高貴な人たちに威厳を授けるのです。我がイギリス商人は我が国で産出されるスズを金に、羊毛をルビーに変えます。イスラム教徒は英国製品を身につけ、極寒地に住む人々は羊毛で暖を取ります。

私は王立取引所に出向いていたときしばしば、彫像となっているのですが、かつての国王の一人が等身大で立ち、日々裕福な人たちが往来している中央ホールを見下ろしているさまを心に思い描きました。かつて自分が支配していたこの狭い場所でヨーロッパのありとあらゆる言語が話されているのを耳にしたり、自分の生存中には有力な直臣の召使にすぎなかった多くの平民たちがまるで君主のように、以前王室の金庫にあったよりも多額のお金を扱っている様子を目にしたりして、彼はさぞや驚いていることでしょう。貿易は英国の領土は拡大しませんが、ある意味で帝国に領土を提供しているのと同じことなのです。すなわち、貿易は富める者の数を増やし、我が国土をこれまで以上に限りなく貴重なものにし、国土に劣らないほど貴重なその他の財産を付与しているのです。⁶⁾

第70号 1711年5月21日（月曜日）

【アディソン】

時には民衆の見方や判断の方が正しいことがある。

（ホラティウス）¹⁾

6) この記事は、18世紀のホイッグが、国家にとって商人階級が重要であると唱えるさいの古典的な説明のひとつとなった。

1) ホラティウス『書簡詩』2. 1. 63.

旅をしたときの私の楽しみのひとつは、訪れる国々で父から子へ伝えられ、庶民の間でもてはやされている歌や物語を聞くことです。なぜなら、庶民というものはたとえ烏合の衆であっても、何かが多くの人々に広く好まれ受け入れられるとしたら、そこには必ず何か人の心を満足させ喜ばせるものがあるはずですから。人間性というものは、道理をわきまえた人であれば一様に存在しており、人間性に適応するものであればどんな身分の読者にも同じように称賛されるものです。ボワロー氏によると、モリエールは炉端で仕事をしている家政婦の老婆に作品を読んで聞かせ、その反応で劇場で成功するかなかを知ることが出来たということです。観客は常に老婆と同じ反応を示し、笑いも必ず同じ箇所で起るということでした。²⁾

本来的に率直な考えというものはあらゆる好みに対応しますが、私が著述のゴシック様式と呼んでいるものは、取るに足らぬ警句作家に対して思わしくない不自然な好みを抱いている人たちだけを満足させます。ホメーロスやウェルギリウスやミルトンは、言語さえ理解できれば、気取りのない常識を備えた読者を満足させることでしょう。こういった読者は、マルティアリスの警句やカウリーの詩は好まないし理解しないものです。一方、庶民の喜びである平凡な歌やバラッド（民謡）は、気取ったり無知でさえなければ、必ずあらゆる読者に喜ばれます。その理由は明快です。それはごく普通の読者に気に入られる絵画が最も洗練された人々にも美しく見えるのと同じことなのです。

「チェヴィーチェイス」という古謡はイングランドの庶民お気に入りのバラッドです。³⁾ベン・ジョンソンはかつてこんな作品を書いているよりこのバラッドの作者になっていればよかったのにと語ったことがありました。⁴⁾サー・フィリップ・シドニーは、詩論の中で、このバラッドについて「パーシ

2) ボワロー (1636-1711)『著作集』(1711-12) 2. 89.

3) アディソンはこの古謡を高く評価した。バラッドは15世紀に流行した。

4) ジョンソンとウィリアム・ドラモンド (1585-1649) の対談は1711年にエディンバラで活字にされた。

一とダグラスのことを歌った古謡を聞くと、私はいつも心が動かされる。歌い方は粗野だが声の綺麗な盲目のフィドル奏者が歌うのだ。この歌は未開の時代のもので古色蒼然としているが、もしこの歌にビンダロス風のきらびやかな修辞が施されていたらどんなことになるだろう。」と述べています。⁵⁾私はどうかといいますと、私はこの古謡をとっても高く評価していますので、読者のみなさんにはこれ以上弁護をせずに、ある批評をご紹介しますことにします。

現代の優れた批評家のみなさんは、概ね、英雄詩はその詩人が住む国の体質に合ったある重要な道徳観をその創作の基礎に置くべきであると主張しています。ホメーロスやウェルギリウスはこの観点から創作しました。ギリシャという国は、相互に傷つけあい、共通の敵であったペルシャ人の皇帝を戴くことになった国家の集合体でしたので、ホメーロスは彼らの間にギリシャの安定を確保するために不可欠の和を確立させることを目的として、アジアの君主に対抗するために同盟を結んだギリシャの君主間の軋轢を彼の詩の基礎に据えたのです。つまり、ホメーロスは、ギリシャの君主が互いに妬みあったり、敵意をむき出しにしていると、敵には好都合になるのだといったかったのです。ところで今論じている古謡が書かれた当時は、全員が小さな領土の君主だった豪族間の紛争が激しくなっていたのです。そして豪族間あるいは隣国との争いは、国に言語に絶する惨禍を引き起こしていました。そこで、この古謡の作者は、こういった異様な争いを思いとどまらせるために、イングランドおよびスコットランドの貴族に行き渡っている相互の反目が原因で生じる血生臭い戦いや悲惨な死の場面を描写したのです。このことは、最後の4行を見れば明らかです。現代の悲劇作家のように、この作者は、読者のためにひとつの教訓を引き出しています。

国王陛下万歳！ 国が栄え、喜びに満ち、

平和でありますように。

5) 『詩の弁護』(グレゴリー・スミス編『エリザベス朝批評集』1. 178.)。

願わくは、今後は、貴族間の醜い争いが
起りませんように。

つぎに優れた英雄詩人に認められる特徴は、国にとって誉れとなる人物や行動を称えていることです。例えば、ウェルギリウスが取り上げる主人公はローマの建国者であり、ホメーロスの主人公はギリシャの君主だったのです。従って、ローマ人であったヴァレリウス・フラクスやスタティウスが彼らの叙事詩の主題として、金の羊毛捜しやテーバイの戦いを選らんだのは馬鹿にされて当然だったのです。⁶⁾

ところで話題にしています古謡の作者は、主人公を自国に見出しただけでなく、あっぱれな挿話をいくつか紹介してその名声を高めているのです。戦場に一番乗りし、最後まで残っているのはイングランド人なのです。戦場ではイングランドは1500名で、スコットランドは2000名です。戦線を維持するのに、イングランドは53名で、スコットランドは55名です。両軍とも、その他の兵士は戦死します。ところで、ここで最も際立っている点は、戦闘およびそこで指揮をとる貴族の死の報せを受け取るスコットランドおよびイングランドの王の様子の違いです。

この報せはスコットランド王のいる
エディンバラにもたらされた。
勇猛果敢なダグラス伯が
矢に倒れて急死したとの報せが。

なんと酷い報せだ、とジェイムズ王は言われた。
どうしたらよいのだ、
もはや彼ほどの名将は残って
いないのだ、我が国には。

6) フラクスの叙事詩『アルゴナウテース』は未完、スタティウスの『テーバイ物語』は92年頃書き上げられた。

ほどなくして同様の報せが
ヘンリ王の元に届いた。
ノーサンバランド伯パーシーが
チェヴィーチェイスで亡くなったとの報せが。

どうか神の祝福を、と王は言われた。
神のみもとに召されるしかないのだから。
必ずや我が国には彼のような立派な人物が
五百名はいるはずだ。

だが、スコットランド人
およびスコットランドには言わせない。
仇討ちをするのだと、
勇敢なパーシー卿の死の。

ヘンリ王はこう誓った、
ひざまずいて。
一日に、50人もの騎士が死をともにしたのだ、
誉れ高い領主たちと。

さらに、その他身分の低い者たちで
命を落した者は数知れない。

この作者は同国人に対して賞賛に足るほどの偏愛を示す一方で、スコットランド人のことも非常に大胆で勇敢な国民として描きます。

乳白色の軍馬にまたがったダグラス伯は
勇猛な豪族として
一軍の先頭を走った。
黄金色に輝く甲冑を身につけて。

ダグラス伯の気持と行動はどこから見ても英雄に相応しいものです。我々二人のどちらかが死ななくてはならない、と彼は言います。私も貴方も伯爵だから、戦闘をやめるわけにはいかない。だが、我々のために数多くの無垢な人々を殺めるのは忍びない、いやそれはむしろ罪だ。そんな事態を避けるために、二人で決闘して決着をつけようではないか、と彼は言うのです。

勇敢に立ち向かうことで、
どちらかは死ぬことになる。
私は貴方のことをよく知っている、
パーシー卿、貴方も私も伯爵だ。

聞いてくれ、パーシー、罪のないこの連中を
殺めるのは忍びない。
また、大きな罪でもある。
彼らには悪いところは何一つないのだから。

貴方と私の一騎打ちにしよう、
家臣どもを退けて。
パーシー卿は言った、
受けてたてないようなら呪われろ、と。

この勇敢な二人が英雄的な感情をみなぎらせていさぎよく談判をして、一騎打ちをしていたとき、スコットランドのダグラス伯が倒れます。そこで、ダグラス伯は、最も苦々しい状況として、好敵手パーシーが自分の死を見ていたのだという遺言を口にし、家臣たちを鼓舞して彼の死の復讐をさせます。

そのとき、イングランド軍から
鋭い矢が放たれた。
矢はダグラス伯の心臓に
深く突き刺さり、命取りとなった。

ダグラス伯は言葉少なくつぎのように語った。

みんな戦うのだ、

私の命は尽きた、

私の最後を目にしたのはパーシー卿なのだ、と。

「メリーメン」という言葉は当時では、単に仲間や同僚の兵士を元気づける言葉でしかありません。ウェルギリウス『アイネーイス』第11章のつぎの文は非常に称賛されています。断末魔の苦しみを味わっているカミーラは、受けた傷に涙するのではなく、女兵士に求められるとおりに、(ちょうど今語っている英雄のように) ひとえに自分の死後の戦いのことを思いやっています。

キラキラ輝いていた彼女の眼にはかすみがかかり、

頬からは血の気が引きます。

そのとき、彼女は最も信頼を寄せている者に向かって、

苦しみに喘ぎながら、つぎのように語ります。

ああ、もう駄目だ。彼の姿がちらつく、

彼に無情な死を、彼に復讐をするのです。

私のこの最後の言葉をトゥルヌスに、大至急報せて、

私にかわって指揮をとってくれるよう伝えておくれ。

トロイア人を撃退し、国を救うのです。

頼みます……。⁷⁾

トゥルヌスの死はさほど英雄的なものではありませんでした。だが、我が作者は、私の最後を目にしたのはパーシー卿なのだという最後の行では、トゥルヌスの台詞に目を留めたようです。

勝利したのはあなたたちだ。私が倒れたのを

目にしたのはアウソニア人たちだった。⁸⁾

敵を哀悼するパーシー伯の様子は、寛大で、美しく、情熱的です。このよ

7) 『アイネーイス』11. 820.

8) 『アイネーイス』12. 936-7.

うに昔の詩人の場合ですと大目に見ることができますが、表現はとても素朴です。読者のみなさんは、そうだからといって思考力までも劣っていると考えないで戴きたいと思います。

そこで、パーシー伯は
死者の手を取り、語り掛けた。
ダグラス伯よ、貴方の命を奪うくらいなら
私の領土を失った方がよかった、と。

嗚呼、貴方のことを思うと
私の心は悲しみに押しつぶされる。
確かに、名高い騎士は
不運をかこったのではなかった。

「死者の手を取り」という美しいひとくだりを読むと、読者のみなさんはアイネイアースのラウススに対する振舞いを思い出されることでしょう。老父を救出にやってきたラウススは、アイネイアースの手に掛けて殺されたのです。

信心深い王子は若いラウススの亡骸を見つめた。
彼は深く悲しみ、涙した。そして彼の手を握り締めて
言った、嗚呼なんと哀れな若者よ、この立派な若者は
いくら賛美してもしすぎることはない……。⁹⁾

今日取り上げました古謡の別の箇所につきましては、また機会を改めてご紹介することにします。

9) 『アイネーイス』10. 821-3.

第71号 1711年5月22日（火曜日）

【スティール】

愛が私にペンをとらせたのです。(オヴィディウス)¹⁾

熱情を完全にコントロールするのは非常に困難なことです。従って、コントロール出来ないと考える人たちは、ただ単に熱情の調整にとどめます。だが、人生を安楽に過ごすためだけでなく、快適に過ごすためにも役立つ第三の方法があります。それは熱情を洗練させ、造物主から授けられた状態よりももっと高雅なものにすることなのです。熱情が愛に向けられる場合には、愛の対象の力と威厳さえあれば、粗野で野蛮であっても無垢な人の場合はうまくいきます。自然に第三者に敬意を払わせ、想像力を燃え上がらせると同時に叱責するやり方があります。これがうまく達成されますと、直接的な野望は報われ、満足させられることになります。この因果関係については、ドライデン氏が『サイモンとイーピゲネイア』という物語の中で巧みに描写してところです。ドライデン氏はサイモンは大変な愚か者で「思慮にかけため、彼は歩きながら口笛を吹いた」と描写した後で、彼にはつぎの場面を用意します。ここでの彼に対する印象はとても効果的であり、驚嘆すべきであると同時にごく自然なものと思われます。

たまたま、彼はある夏の休日に
緑陰へと向かっていました。
身から離れたことのない六尺棒を
肩に担いで、
あてもなくてくたくと歩いていました。
思慮にかけため、口笛を吹きながら。
偶然からか、喉の渇きのためか、

1) オヴィディウス『名婦の書簡』4. 10.

森の奥深くに達しました。
木々に囲まれた平地の草地の中を
水のきれいな小川が流れていました。
そばには、白くなめらかな水をたたえた泉がありました。
泉の縁には、(従者を従えた)乙女が眠っていました。
まるで狩りに疲れたディアーナと妖精たちが
涼しいエウロータースのそばで休んでいるかのように。
この乙女が女神であることは、身にまとっている紫色の衣、
魅惑的な顔立ち、そして、まどろんでいても発散される
しとやかさによってはっきりと示されていました。
美しい手足はこのうえなく上品で、身体はシマーで覆われ、
胸元は堂々とあらわになっていました。
胸にはそよ風が吹きつけ、
胸は風にあわせて波打っていました。
そよ風と小川のせせらぎは眠りを妨げることはありませんでした。
生まれつきの愚か者である彼は、いかにも驚いたのでしょうか、
呆然とした眼差しで口をポカンと開けたまま突っ立っていました。
目は彼女に釘付けで、そらすことは出来ませんでした。
彼は愛には不慣れで、喜びには初心者でした。
長い間押し黙ったまま、六尺棒にもたれかかり、
白痴のような笑みを浮かべ驚いているだけでした。
話し掛けたいところでしたが、感覚はおぼろで、
言葉は見付からず、彼女の気分を害するのを恐れたのです。
彼は田舎者丸出しの無骨者の喋り方をすれば、
おはこが知れると氣遣ったのでした。²⁾

2) 『サイモンとイーピゲネイア』79-116.

ところで、大家ドライデン氏のこの素晴らしい描写は実際に世間で起っていることと掛け離れているのではとの異議が唱えられないように、地方の恋をしたある従僕³⁾の恋人への書簡を一言一句省略せずにご紹介することにします。ただし、この二人の熱情には身分以上の敬意を払う必要がありますので、二人の名字はふせることにします。ジェイムスはある貴族の館で召使をしており、エリザベスはあるお嬢さんの世話をしており、二人は離れ離れに暮らしています。ベティーに出会う前のジェイムズは力自慢の気性の荒い男で、喧嘩早い棍棒の使い手でした。一方のベティーは五月祭では評判の踊り手で、スツールボール⁴⁾の上手なお転婆娘でした。ジェイムズはいつも暇を持て余している女の後を追いかけており、ベティーは百姓たちにまじって遊んでいたのです。要するに、ジェイムズは田舎の餓鬼大将で、ベティーは田舎の男たらしだったわけです。ところが、愛によって彼女は主人の部屋にいる時間が多くなったのです。部屋にいますと、主人からジェイムズの話がせがまれて、彼女のひそかな激情は満たされるのです。一方のジェイムズも絶えず主人の部屋の近くに控え、時間の許す限りロマンスの読書をして過ごすようになったのです。私にはモリーという人物がどういう人か分かりませんが、この人物がつぎのような手紙を書かせるきっかけとなった怒りのことづけを届けるために10マイル離れたところまで歩いて行ったようです。

エリザベス×××へ

1711年5月14日

親愛なるベティー

どうか痛ましい私のことを忘れないで下さい。まさしくヴィーナスそのもののうわしきあなたに会ってからというもの、私の心はキューピッドの矢に射抜かれ血を流しているのです。

3) ニコラスはこの従僕の名前はジェイムズ・ハーストであり、エドワード・ウォートレイの召使であるとしている。

4) クリケットに似た昔の遊びで、主として若い娘たちが行なった。

うるわしきあなたへの愛と思ひやりに対する報いがこのようにひどいとは思ひもよりませんでした。私の素行が下劣だとのことですが、嗚呼、私にはそんなところは微塵もないのです。実際にはまったくその逆なのです。純粹な愛をひとえにうるわしきあなたに捧げているのです。そのありさまは物笑いの種となるほどなのです。

モリーが届けてくれた悲惨な報せを読んで、私は深く傷つきました。これは私があなたに捧げる愛と敬意に対してはあまりにもひどい仕打ちでしたし現在もまたそうだと証しだと思われます。

モリーから聞いたところでは、たとえ私があなたのもとに40回通っても、あなたは私とは口をきかないということでした。私にとってはこれほど悲しいことはありません。

だが、たとえ交際してうるわしきあなたとお話ができなとしても、どうか私のこの内に秘めた想いだけは分かって戴きたいと思います。この想いに駆られるようになって随分になります。あなたに分かって戴けないとしたら、きっと私の心臓は破裂してしまうことでしょう。

これまでいろいろな女性に出会いましたが、あなたほど素晴らしい女性はいません。私は心底あなたのことを愛しているのです。

主人のお嬢さんと結婚するためにロンドンからやってきました若い紳士は、昨夜はほぼ明け方まであずまやに閉じこもっていました。嗚呼、親愛なるベティー！ どうして夜鳴き鶯は私たちのような真の恋人ではなく、欲得ずくの結婚をする連中のためにさえずるのです。嗚呼、親愛なるベティー！ 今宵かつて出会っていた森で会えないだろうか。

たとえうるわしきあなたの唇にキスできないにしても、せめてあなたが適当と考えられる程度に差し伸べられたあなたの美しい手にキスをする幸せを授けて戴けませんか。時間さえ許せば、私は一日中あなたへの想いを書き綴ることでしょう。でも、時間はなく、紙幅もわずかですので、この辺りでペンを置きます。命ある限り変らぬ愛をあなたに捧げます。

ジェイムス×××

なんと気の毒なジェイムズでしょう。彼には時間も紙幅もなさそうですので、その双方に余裕のある私が、彼の愛情あふれる手紙（表現は彼が理解できずに聞いたり読んだりしたことの断片が盛り込まれていて混乱しているように思われますが）で述べたかった気持ちを代弁してみます。

愛しい人へ

あなたはあなたに恋い焦がれてすべての気晴らしや楽しみを投げうっている人のことを無視できますか。私の場合には、これまでに描写された最も美しい描写のヴィーナスよりもあなたの方が好ましく思われるのです。この愛情に対して、あなたは愛していませんという非難の言葉を投げ返していらっしゃる。だが、それは正反対であることは明らかですので、私はあなたのおっしゃることを真剣に受け止めることは出来ません。でも、モリーからはっきりと私のことを愛していないというあなたのことづけを聞いて、私は落胆しています。モリーによるとあなたは私には会ってくれないということです。たとえあなたがそれほど情け容赦のない仕打ちがとれるとしても、せめてあなたの美しい手の痕跡にキスできるように手紙くらいは戴けませんか。私は誰にもましてあなたのことを愛しているのです。私にとっては、あなたが冷淡に見ていらっしゃることはこのうえなく強烈な喜びであるか苦痛のいずれかになります。主人のお嬢さんとロンドンの紳士は、お金目当てで結婚することになっているのですが、二人は庭を散策し、夜鳴き鶯のさえずりを耳にします。夜鳴き鶯は、彼らの求愛の言葉を耳にして、まるで彼らのために静寂さを演出しているかのようです。嗚呼、ベティー！ あなたと共に、小川のせせらぎ、鳥のさえずりが聞けたらどんなにうれしいことでしょう。分別に欠けるのですが、私は私たち二人が召使でなく、この世に私たち以外に誰もいなかったらいいのにと考えているのです。嗚呼、私は愛ある限り、命の続く限り、あなたに手紙を書きます。

ジェイムズ

〔注〕「素行が下劣」という言葉でジェイムズの言いたいのは、女性の場合

は「こびを売ること」で、男性の場合は「不実であること」を意味します。

第72号 1711年5月23日(水曜日)

【アディソン】

不朽の家系は続き、一族は栄え、連綿とつらなる

家系図には、先祖代代、子々孫々の名が記録される。

(ウェルギリウス)¹⁾

古今の風変わりなクラブにつきましてはすでにご紹介しましたので、これ以上この種の話はする積りはなかったのですが、最近、昔とも現在とも言えないのですが、私自身はさることながら、読者のみなさんも驚かれるあるクラブの情報を入手しました。そこで、この非常に奇異なクラブについてお伝えすることにします。

私のある友人は自分の知り合いの商人のことを嘆いています。友人によると、この商人は家族をないがしろにし、ほぼ四六時中酒浸りになっている大変な怠け者の道徳心を欠いた人物だということです。友人から聞いたところでは、その人物は「不朽クラブ」の会員だということでした。非常に奇異なクラブ名を聞いて、私は好奇心をそそられ、このご大層な名称のついているクラブとはどんなものか尋ねてみました。すると、友人はつぎのような解説をしてくれたわけです。

「不朽クラブ」の会員は100名で、1年中夜昼間わずクラブを開いておくために、24時間を会員間で割り振っているのです。自分たちの後釜がやってこない限り誰ひとり席を立とうとしません。こうすることで、不朽クラブの会員はいかなる時でも決してひとりきりになることはないのです。自分が当番でなくても、必ず誰か当番の人がいます。その結果、食前酒を一杯、お昼に

1) ウェルギリウス『農耕詩』4. 208-9.

一杯、夕べに一杯、あるいは深夜に一杯飲みたくなってクラブに行くと、常に気心の知れた友人たちの一団が控えていることになります。

このクラブには幹事は死亡することはないという格言があります。なぜなら、幹事役は輪番となっているため、誰も後任がやってくるまではテーブルの奥まった位置にある肘掛椅子から離れようとしませんので。要するに、常に空席なしということなのです。

このクラブはピューリタン革命末期（中には中頃という人もいますが）に設立され、ロンドン大火まで中断なく持続しました。大火によって焼け出され、数週間は解散の憂き目にあったのです。その当時の幹事は（消火のために打ち壊されることになった）隣家とともに打ち壊される寸前まで彼の持ち場を離れようとせず、テーブル上の酒を全部空っぽにするまでは椅子から立とうとせず、再三再四退去するようにとの指示を受けました。クラブではこの幹事のことがしばしば話題にのぼり、彼は会員一同から、クラレンドン卿がその名を挙げている命令が出るまで船を離れようとしなかったために船中で焼死したかの有名な船長²⁾よりも偉大な人物と見なされているのです。設立50年祭を迎えた1700年末頃に、クラブを解散すべきか持続させるべきかの検討がなされたということですが、侃侃諤諤の議論の末、もう1世紀続けることに合意しました。この決議は満場一致で可決したのです。

前述のように不朽クラブの設立と経緯につきましては簡単にご紹介しましたので、これからはこの件について入手しました事実在即して会員それぞれの振舞いや特徴といった点について述べてみたいと思います。

クラブの帳簿から割り出してみますと、設立時から現在までに、タバコは50タン、エールは3000バット、赤のポートワインは1000ホッグズヘッド、ブ

2) クラレンドン (1609-74) の『大反乱史』には出てこないが、この艦長はおそらく、チャタム防衛戦でロイヤル・オーク号とともに焼死したアーチボルド・ダグラスのことであろう。それとも、アディソンは1672年のソールベいの戦いで旗艦ロイヤル・ジェイムズ号が炎上した後、溺死したと考えられている初代サンドウィッチ伯爵のことを想起したのかも知れない。

ランデーは200バレル、スモールビールは16ないし18ガロン、消費しています。³⁾同様に、夥しい数のカードの消費も見られます。同時にまた彼らは、タバコの火をつける便宜とクラブ室の湿気を取り除くために暖炉の火は絶やさないようにとのベン・ジョンソンのクラブのおきてを遵守しているということです。彼らのもとには、ウェスタに仕えた処女⁴⁾のような老婆が一人います。彼女の仕事は代々燃え続ける暖炉の火を守ることであり、何回にもわたってガラス製造所の火を隅から隅まで調べ尽くしています。

不朽クラブは他のすべてのクラブを軽蔑しており、キットキャットクラブも十月醸造ビールクラブのことも単なる成り上がりものと見ています。⁵⁾彼らの通常の話題は、(私の知る限りでは)完全に自分たちの仲間内で起った冒険談に限られています。例えば、誰それはクラブから離れずに、1週間ぶつ通しで交代で飲み続けたとか、誰それは一度にタバコを100服吸ったとか、誰それは丸20年間朝の一杯を欠かしたことがないといったことが話題になるのです。チャールズ王時代のエール事情を有頂天になって話すときもあれば、会員たちによって奇跡的に復活したのですが、ホイスト⁶⁾のゲームについて、可能性が全くなかったときの絶望的状況を驚きをもって語るときもあります。

他にも似通った啓発の言葉もありますが、彼らは昔の歌の一節が好きで、時間を選ばずに口ずさみ、互いに鼓舞しあい、一杯やり、飲酒によって不死の人となろうとします。

年に4回総会が開かれます。総会は、満席となり、ウェーターを指名し、暖炉係を再任するか新人を選出します。そして、石炭やパイプタバコやタバコやその他必需品の分担を決めます。

3) 単位は概ねつぎの通り：1タン=252ガロン、1ガロン=約1134リットル、1バット=108から140ガロン、1ホッグズヘッド=238.5リットル、1バレル=約227リットル

4) ウェスタは永遠の貞潔を誓い、女神の祭壇に燃える不断の聖火を守った6人の処女のひとり。ローマ神話でかまどの女神。

5) 第9号参照。

6) カードゲームの一種。

古参会員は他の会員の2倍以上長生きをしており、現会員何名かの祖父とお酒を共にしたことがあります。

第73号 1711年5月24日（木曜日）

【アディソン】

ああ、確かに女神が。(ウェルギリウス)¹⁾

数多くの弱点や欠点に気づいている人間のような生き物が名声を得たいという気持ちに駆り立てられる、つまり、人間というものは悪徳や無知や欠陥や惨めさがあるにもかかわらず、称賛を求めて競い、精一杯自らが称賛の的になるために努力しているのだということを考えるととても妙な感じがします。

絶対的に卓越しているということはほとんどないのですが、相対的に見た場合には、卓越している点はかなりあるかも知れません。自分だけを抽出して考えた場合には、誇れるものはさほどありません、だが、他者と比較した場合には、それが自分自身の徳ではないにしろ、少なくとも自分には他者の欠点はないのだということを誇りにするきっかけになることがあります。このことは、賢者と愚者では、それぞれ異なった見方をします。賢者の場合は、自らが異彩を放つよう努力し、愚者の場合は、他人より秀でようとし、賢者は自分には欠点があるのだという意識があるために謙虚になりますが、愚者は他人に欠点があるのを認めて慢心します。賢者は自分に欠けている点を考慮し、愚者は自分に備わっている点を考慮します。賢者は自分が望んでいたことを達成したときに満足し、愚者は周囲の人々から認められたとき満足します。

だが、この人間の称賛されたいという気持ちがいかに無分別で不合理に見えても、全面的に思いとどまらせる必要はありません。なぜなら、それはしばしば、卑劣で見下げる果てた行動を取らせないだけでなく、立派で誉れある

1) ウェルギリウス『アイネーイス』1. 328.

行動へと駆り立てるといった好結果をもたらすからです。発端は欠陥があったり、誤っているかも知れませんが、結果はとても素晴らしいものですので、人のためには、その気持ちをなくしてしまう必要はないのです。

最も偉大で最も異彩を放つ人物は、たいてい功名心に駆り立てられているのだとキケロは語っています。²⁾男女両性を見た場合、私はこの行動原理は男性よりも女性の方に強く存在していると思います。

女性に顕著に見られる褒め称えられたいという気持は、賞賛に値するものだけを称えられたいと考えている分別のある女性の場合には素敵な効果をもたらします。そういった女性の多くは、大多数の男性よりも一貫して高潔であり、同時に、どこまでも名誉ということを気遣った生活を送るのだということを私はお世辞抜きで認めることが出来ると思います。貞節、誠実、献身の実例にはことかきません。男性は戦争、貿易、正義の遂行で有名になり名を挙げるのですが、女性の素晴らしい素養であり功績でもある子供の教育、家族の世話、夫への愛で際立った存在の貴婦人も数多くいます。

しかし、この称賛されたいという気持が理性にしたがって機能する場合は、賞賛するに足るすべての点で女性を向上させますが、虚栄と愚行に支配されるときには、これほど危害を及ぼすものはほかにはありません。従って私がここで言っておきたいことは、ひとえに虚栄をはっている女性には注意して戴きたいということなのです。読者のみなさんには十分に分かって戴けることですが、私はこの後はそういった女性には「偶像」という名をつけて他と区別することにします。偶像は身をやつすことに完全に心を奪われています。姿勢、顔の表情、頭の動かし方を見ると、崇拜者を獲得することが彼女の関心事であり目的であるのが分かります。このため、偶像は男性を誘惑して崇拜させようとする目的であらゆる公の場所や集まりに姿を見せます。劇場にはいつも偶像が群がっています。毎晩円形劇場に行列を作っているものもいますし、教会にまでも誉めそやされようとするものがいます。彼女た

2) 『義務論』1. 8. 26.

ちは神に相応しい言葉でもって話し掛けられます。生殺与奪の権は彼女たちが握っていますし、天上の喜びも地獄の苦しみも彼女たちの意のままです。楽園は彼女たちの腕の中にあり、彼女たちと共にいるときが永遠のときなのです。歓喜、恍惚、そして喜びが彼女たちの授けるご利益で、嘆息、涙、そして傷心が彼女たちへの供物なのです。彼女たちの笑顔を見ると幸せになり、不機嫌な顔つきを見ると絶望します。このテーマでは、一言、オヴィディウスの書『愛の技術 (アルス・アマトリア)』³⁾がある種異教の式典書であり、そこには偶像に捧げられるありとあらゆる崇拜の形が登場すると付け加えておきたいと思います。

この種の様々な偶像をひとつひとつ数え上げるのは、ミルトンがカナンの地およびその隣接の地で知られている偶像を数え上げたのと同じように厄介な仕事です。⁴⁾ 大多数の偶像は、モレクのように、火と炎に包まれて崇拜されます。中には、パールのように、信者が切り刻まれ、血を流している姿を見るのが好きな偶像もあります。また中には、『聖書外典』に登場する偶像のように、毎晩ご馳走を用意しなくてはならない偶像もあります。⁵⁾ 中には、捧げられたお祈りに応えないときには鞭打たれる中国の偶像のように、香をたく崇拜者に取り巻かれる偶像がいるということです。⁶⁾

私はここで、今話題にしています偶像に身を捧げる偶像崇拜者は他の偶像崇拜者とは全く異なっているのだと言っておかなくてはなりません。というのは、他の偶像崇拜者はそれぞれ違った偶像を崇拜するためにあい争いますが、今話題にしています偶像崇拜者は同一の偶像を崇拜するためにいさかいを起こすからです。

従って今話題にしています偶像の意図は、偶像崇拜者の希望とは全く相容

3) オヴィディウスの『愛の技術』は、ドライデン、コングリーヴ、ネイハム・テートたちによって1709年に出版されていた。

4) 『失楽園』1. 376.

5) 「ベルと龍の破壊について」5. 3.

6) ルイ・ル・コント『中国旅行記』(1697) 参照。

れないものなのです。崇拜者は偶像を一人占めしたいと考えているのですが、偶像の関心事および野心はひとえに崇拜者を増やすことにあります。偶像のこの気質はチャーサーの物語の中でうまく描写されています。彼は信者を三名従えてテーブルに着いている偶像を描きます。三名とも彼女の好意を得ようとして祈りを捧げています。彼女は一人には微笑みかけ、一人には乾杯をし、あと一人にはテーブルの下足を踏んだのです。さて、どの人が彼女のお気に入りだったと思いますか、とチャーサーは言います。実は彼女のお気に入りはその三名の中にはいなかったのです、と彼は言うのです。

チャーサーの描写する偶像の振舞いを見ていると、私は当代きっての偶像である美貌のクラリンダのことを思い出します。彼女は週一回普通アセンブリと呼ばれている大会衆の中、ろうそくに火がともされて崇拜されます。浮かれた若者たち何名かが、無数のろうそくに囲まれて座っている彼女の目にとまろうとします。彼女は偶像崇拜者の熱意を煽るために、彼らがいる間に一人一人に好意を寄せているしるしを授けます。最初の人には質問をし、二番目の人には話をし、三番目の人には流し目をし、四番目の人からはかぎタバコを一服もらい、五番目の人にはわざと扇を落して拾わせるのです。要するに、全員上首尾に満足し、つぎの聖務日課の定時課のときにはさらに献身するのだとの気持を抱いて立ち去るわけです。

偶像というものはいろいろな不慮の原因から神でなくなることがあります。特に結婚は反神格化の最たるもので、いわば逆転した神格化といえます。男性が女神と親しくなると、女神だった彼女は急速にひとりの人間の女になってしまう。

老齢もまた同様に、偶像を破壊する大きな要因です。実は、老齢でその任に耐えられなくなった偶像ほど不幸せな存在はありません。とりわけ、周囲に崇拜者がいるときに雰囲気や振舞いがとても奥ゆかしかった女性ほどそうです。

あれこれ様々な事例を見ましても普通人間の女の方が偶像より長命であることを考えますと、本紙の原則に立ち返まして、私は公明正大な読者のみ

さんに称賛されたいという気持ちに対する適切な心得を呈示しなくてはなりません。要するに、称賛されるには自分自身が道理に適い永続的な称賛の的になるよう努力しなくてはならないのです。これを期待するには美しさや衣服や流行からでは無理であって、時や病気によってもそこなわれることがなく、自分をよく知っている人たちに好ましく思われる内面の飾り付けをしっかりとすることによってはじめて可能になるのです。

第74号 1711年5月25日（金曜日）

【アディソン】

仕事が突然打ち切られる。（ウェルギリウス）¹⁾

先週月曜日の紙面では読者のみなさんにチェヴィーチェイスという古謡の美しい筆致についてその概略をお知らせしました。本日はお約束通り、このバラッドについてもっと詳細に解説し、その情趣がきわめて自然で詩的なものとなっており、偉大な古典詩人たちに伺える荘厳なまでの率直な表現がふんだんに盛り込まれているのだということを明らかにしたいと考えます。そういうわけで、発想が『アイネーイス』とურიふたつの箇所をいくつか引用してみます。そこから私は（誰であれ）このバラッドの作者が『アイネーイス』の模倣を企てたのではなく、ほぼ同種の詩的才能と同種の自然の姿を模写する姿勢を持ちあわせていたためにそのような似通った詩句になったのだと推論しようとしているのです。

もしこの古謡に警句風のひねりや機知がぎっしり詰め込まれていたなら、おそらく悪趣味の読者にはうけていたことでしょうが、庶民を楽しませるものとはなっていなかったでしょうし、トランペットの響きのように、サー・フィリップ・シドニーの心を興奮させることもなかったでしょう。²⁾このように影響力をもち、偏見がなく最も洗練された趣味の持ち主を満足させること

1) ウェルギリウス『アイネーイス』4. 88.

2) 第70号参照。

が出来るのは、ひとえに人間の自然な姿なのです。とはいえ、僭越ながら、私は、この古謡は表現が粗野で装いが不快であるとの見解を示された大家サー・フィリップ・シドニーとは意見を異にしているのです。発想だけでなく言語が荘厳な箇所が数多くあり、多くは堂々としたもののなのです。少なくとも、読者のみなさんには以下の引用でお分かり戴けますように、装いはエリザベス女王時代の多くの詩人たちよりはるかにきらびやかです。

つぎのスタンザに見られる発想も表現も、これ以上立派なものがほかにあるでしょうか。

犬と角笛を駆使して鹿を追い詰めるために
パーシー伯は向かった。
まだ生まれていない子孫は残念に思うか、
その日に狩りがあったことを。

この戦闘の直後に生まれた父親を亡くした子供たちだけでなく、この二人の伯爵の反目に端を発したその後の戦いで滅びた人たちをも含めてこのたびの戦いが子孫にもたらした災禍について思いを寄せるこの方法は、実に優雅であって、同時に古典詩人たちの発想の仕方に似ているのです。

若者たちに、我々が死物狂いで抜いた
神をも恐れぬ剣について語り聞かせよう。
傲慢なメディア人には若者たちが我々の意志を
継いでくれるのだと思い知らせてやるのだ。³⁾

つぎのスタンザほど堂々として詩的であって、古典詩人たちの荘厳なまでの率直な表現に似ているものはほかにはないでしょう。

手強いノーサンバーランド伯は
神に誓いを立てた。
伯は夏の3日間スコットランドの
森を楽しんだ。

3) ホラティウス『頌詩』1. 2. 23-24.

1500名の勇猛果敢で
選り抜きの弓兵を、まさかの時には
決して的を外すことのない
精鋭部隊を従えて。

犬たちは森の中を素早く走りぬけた、
敏捷な鹿を追いかけて。
犬の吠え声はこだました、
丘や谷間に。

キュテレイアは大声で私に呼びかける、
ターユゲテー、獲物を追いかけるのだと。
山々がそびえ、馬の産地で名高い
エピダウロス私を疾駆させる。
丘や谷間からは威勢のよい吠え声が、
こだまとなって響き渡る。⁴⁾

見よ、あそこにダグラス伯がやってくる、
甲冑を光らせて。
ゆうに2千名のスコットランドの槍兵が
進軍して来る。

陽気なティヴィデールの連中が
トゥイード川のすぐ間際まで。

この最後の二行で描写されていますスコットランド兵士たちの郷里はとても
ロマンチックなものであり、この詩全体にとって響きの良い二つの単語を用

4) ウェルギリウス『農耕詩』3. 43-45.

意します。それに先行する六行をつぎの古代ローマの詩と比較してみますと、
ウェルギリウスと同じ心で書かれていることがお分かり戴けるでしょう。

彼らは槍を下段に構え、整然と進軍して来る。

そして、徐々に間隔が狭まる。

プラエネステが選抜隊を派遣したのだ、

サトゥルニアのガビニの地を耕す者たちと共に。

さらに、寒冷の地アニエン、ヘルニクスの山、

露の降りる草原からの援軍と共に。

ウェリヌムからやって来た者もいるし、

武勲の誉れ高いアミテルヌムの一隊もいる。

さらに、援軍は続く、セヴェルス山地民も、

岩山のテトリカの兵も、

黄色い水をたたえたテベレ川沿いからも、

奔放な水をたたえたヒメレ川沿いからも。

カスペリアも派兵した、ファバリス川沿いの

豊かなフォルリの町の者たちと共に。⁵⁾

バラッドはさらにこう続きます。

乳白色の軍馬にまたがったダグラス伯は

勇猛な豪族として

一軍の先頭を走った。

黄金色に輝く甲冑を身につけて。

先陣を切っているのは気の荒いトゥルヌスだった。

勇敢なトゥルヌスが軍馬に拍車をかけていたのだ。⁶⁾

我がイングランドの弓兵は弓を絞った、

5) 『アイネーイス』2. 605-6 ; 7. 682-4, 712-15.

6) 『アイネーイス』9. 47, 269-70.

勇猛果敢に、忠誠を尽くして。
最初の斉射で、スコットランド兵を
ゆうに60名は射止めた。

弓兵たちは周囲を固めた、
一分の隙もなく。
幾多の勇敢な貴族は
見とれてその場に立ちつくした。

イングランドの一人の弓兵から
放たれた一本の鋭い矢が
ダグラス伯の心臓を捉えた、
深く突き刺さった矢が命取りとなった。

アイネイアースも同様に、談判中に無名の兵士の手には掛けて傷を負ったのでした。

このように彼が無防備に話をしているとき、
飛んで来た一本の矢が愛国心に満ちた王子に刺さった。
それが誰か人の手によるものなのか、
それとも敵意のある神の仕業なのか、定かではない。⁷⁾

ところで、このバラッドの描写の中で、つぎの四つのスタンザほど美しいものはありません。ここには素晴らしい迫力と精神が宿っており、ごく自然な描写がふんだんに盛り込まれているのです。三番目のスタンザの発想はほかの詩人には見られなかったもので、ホメーロスやウェルギリウスの秀逸の詩行と遜色はありません。

かくして二人の貴族は亡くなった。
両者の勇気は誰も汚すことは出来なかった。

7) 『アイネーイス』12. 318-20.

矢を放ったイングランド兵は知った、
気高い伯爵を殺めたのだということを。

彼は弓を絞ったのだ、
丈夫な木でこしらえた
一ヤールの長さの矢を
頭をめがけて引き絞ったのだ。

サー・ヒュー・モンゴメリーめがけて
彼の矢は外れることはなかった。
矢のハイイロガンの羽は
サーの心臓の血で染まった。

斉射は続いた
日の出から日没まで。
晩鐘を耳にする頃
戦闘はやっと終わったのだ。

同様に、死者の一覧を見ると、このバラッドの作者は、死者の長い名簿を用意する点だけでなく、そこにその人物の若干の特性を載せ名簿を多彩にしている点では、偉大な古典詩人たちの例に倣ったのだと言えるかも知れません。

ダグラス伯の傍らには
サー・ヒュー・モンゴメリーが、
彼らからほんの少し離れた所には、
サー・チャールズ・カレルが、横たわっていた。

また、ラトクリフのサー・チャールズ・マレルも、
彼は妹の息子だが。
みなから尊敬されていたサー・デイヴィッド・ラムも

例外ではなかった。

馴染みのこういった名前を聞くと、描写の荘厳さがそこなわれます。従って、私はこの箇所については触れず、ただほぼウェルギリウスの翻訳と思えるのですが、そこに伺える発想の自然な趣きについて明らかにするにとどめます。

不利な戦いで、リフェウスは続いた。

誓いを立てた通り、正義を守って。

神慮は気にかけなかった。⁸⁾

イングランド側の死者の一覧では、ウィザリントンの振舞いが同じくとても巧みに述べられています。読者には、戦闘が始まったときに彼に関する説明があったのでその心積もりが出来ているのです。私は満足しているのですが、『ヒューディブラス』⁹⁾を読んだことのある) 少々粗野な読者にはこの美しさは分からないでしょう。

勇敢な郷土が歩み出た、

その名をウィザリントンといった。

彼は言った、私なら面目なくて

我が王ヘンリには報告しなかっただろうと。

我が指揮官は徒歩で戦い続け、

私は傍観していたとは。

ウェルギリウスにも同じ英雄的な気質を伺わせる箇所があります。

ルトルムの人々よ、面目なくて

その光景に耐えられるか。一回の戦闘で

危機に瀕するとは。

神の前で、我々の勇気はなえ、兵が減少したのだと

告白できるか。¹⁰⁾

8) 『アイネーイス』2. 426-8.

9) 『ヒューディブラス』1. 3. 94-96.

10) 『アイネーイス』12. 229-31.

運命の日に夫たちを失った女性の振舞いについてのこの作者の描写ほど自然で感動的なものもまたほかには見られません。

翌日、多数の寡婦が出向いた。

夫の死を悼むために。

彼女たちは夫の傷口を涙で洗った。

だが、息を吹き返すことはなかった。

亡骸には深紅の血がべっとりついていてた。

彼女たちは亡骸を持ち帰った。

彼女たちは埋葬するとき、

亡骸にキスの雨を降らせた。

以上見てきたように、このテーマから自然に湧いてくる思いは終始素朴なものであり、時に気高いものであることが分かります。そして、使用されている言語は実に堂々としており、このバラッド全編が真の詩的精神に基づいて書かれていることが分かります。

もしこのバラッドが、作家であれ読者であれけちな才人たちの喜ぶゴシック風になっていましたら、これだけ何世代にも渡って受け継がれてはこなかったでしょうし、あらゆる階級の読者を満足させることもなかったでしょう。何卒、古代ローマの詩を多数引用しましたことをご容赦下さい。これはひとえに、このようなテーマですと、ウェルギリウスの威光による支持がなく、私自身の判断だけですとあまりにも偏りすぎるきらいがあると考えたからなのです。

第75号 1711年5月26日(土曜日)

【スティール】

アリスティッポスにとって、人生はどんな状況、

どんな出来事もすべておあつらえ向きだった。(ホラティウス)¹⁾

私が先日の紙面²⁾でドリマントのことを無骨者といったことで、知り合いの貴婦人から毒づかれたのには少々屈辱を覚えました。彼女は私がこの上なく無口であることに情け容赦なくつけ込んだのです。そしてその際、彼女は、あれほど尊大に慇懃さを示せるドリマントの雰囲気、背丈、顔、身振りには憧れているのだと好き勝手に喋ったのです。彼女はいつも落ち着きがなく、陽気にぎやかに見当違いの言動をとり、無知な人々の間では、一般にとても面白い人物として通用するような人です。彼女はサー・フォプリングの脚本を手にしており、今現在ドリマントほどの魅力的な人がいないのは自分にとって幸せなことだと言った後で、私に勝ち誇ったように、ドリマントの台詞をいくつか芝居がかった声の調子で読みはじめたのです。「メドレーが言っていたのは彼女のことだ。あの美しい髪の毛、柔らかな姿態、挑発的な眼差し、吸い込まれそうな口元こそ。富くじは彼女にするとしよう。ベルエアーと一緒に当たりくじを申し込むのだ。」³⁾

色恋では勝利者は敗北者の前から姿を隠す。

勝利者は恋の痛手を利用し、壊滅させるのだ。⁴⁾

そこで彼女はページをめくり、台詞の朗読とお喋りを交互に繰り返すのです。

さてラビットには思い知らせてやろう、私には

女というものがどんなものか隅から隅まで分かっているのだ。⁵⁾

ああ、なんて立派な紳士なのでしょう。彼女は引き続きこういいます。私のとても好きな箇所はここですわ。ドリマントがラビットをからかい、サー・フォプリングの真似を始める箇所なのです。なんて素敵な諷刺でしょう。彼は伊達男になるのです。たわごとにこんな力強い魔力が備わっているとは。

ああ、うまく証明できたらいいのだが、私が

1) ホラティウス『書簡詩』1. 17. 23.

2) 第65号参照。

3) 『伊達男』3. 3. 32-35.

4) 『伊達男』3. 3. 36-37.

5) 『伊達男』3. 3. 332-333.

あなたのお気に入り的人物に変身していることが。⁶⁾

これほど放縦で陽気であるとは、いかにも道楽者に相応しいではありませんか。

賢い人は自分の運命というものが分かるのだ。

君は女性と結婚し、私は財産と結婚するのだ。⁷⁾

私のような気質の人物には、この貴婦人ほど口達者な人に異議を唱えることは非常に無謀なことだったでしょう。でも後になってから、私は彼女の話した内容についてあれこれ考えを巡らしました。特に、人々（とりわけご婦人方）が一般に「立派な紳士」というときには、本来の意味と異なった間違った感じを抱いていることに注目せざるを得ませんでした。そこで、私はこのテーマについて熟考し、それについて、いわば、私の考えを固めざるを得なかったのです。

広く流布している一般原則に合致しない行動を自国の行動規準として評価すべきではないのです。理性と良識という永劫の規則に反するものは、育ちの良い人物はことごとく排除すべきです。正直なところ、私がドリマントのことを無骨者といい、彼が「オレンジ売りの女」のことを「二重腹」と呼びかけたのをその一例としたときに、十分に私の意を尽くさなかったのです。人間性が備わっている紳士なら人をあざけりの的にはしないのだということを明らかにしておくべきだったのです。なぜなら、あざける相手にも非常に徳高く立派な人たちと共通する点が備わっていることがあり得るからです。紳士が下品な口の利き方をするときには、きれいに着飾っていても台無しになります。体を包む衣装よりも、心の衣装を重視すべきなのです。話をしているときに汚れた心が露呈されると、服装がだらしないことよりもはるかに紳士の会話は阻害されます。ところが、このことに対する分別は、身分のある人たちの間でさえあまり受け入れられていませんので、ヴォシファーが立

6) 『伊達男』5. 1. 88-89.

7) 『伊達男』4. 2. 182-183.

派な紳士として通用しているわけです。彼はその時々によって、ささやかな悟性と強度の厚かましさに煽られるまま、声高で横柄になったり、温和で穏やかになったり、淫らで卑屈になったりします。彼はたいていの場合不安げにしていますため、愚かな婦人たちの間では、才人として通用しています。誰それの方が彼よりも能力が上だと言うと、彼は肩をすくめて反駁し、たっぷり論駁します。彼の性格が愛すべきものになっているのは、彼が見せかけだけの女たらしであるからです。中身の伴わない伊達男は神聖で冒してはならないことを顧みないので、富裕な未婚の婦人がヴォシファーほどの立派な紳士があればどの無神論者であるのは残念なことだと言っているのを耳にしたことがあります。あらゆる集まりの場所に横行している多くのこういった思慮に欠ける人たちについては、読者のみなさんはご自分の目で確認できることでしょう。でも、名誉と信仰の指図に合致する原則に基づいて自分を作り上げている人物が、ありふれた日々の生活の中でどんな有様になるのか考えてみる価値は大いにあるのです。

私はイグノーナスほど立派に日々の義務を果たしている人をほかに見掛けただことはありません。みんなの目にさらされるものですが、彼の行動は偉大で気高い動機にその原点があります。来世に対する確固とした揺るぎない期待が彼をそうさせています。道徳観念に裏付けられた人間性と善良な性質もまた、彼には他の人には見られない効果を及ぼしています。重要な事柄の場合にでも、くつろいで行動していると思わせる無頓着さをしっかり確立していることが、彼には大きな利点となっています。些細な長所を完全に軽蔑することで、彼は紛れもないその征服者となっているのです。こういった気質ですから、彼は気取る必要は一切なく、彼の無頓着さは心からのものであるという一種独特の気品の高さが伺えます。

人間存在を不確かなものと考え、その断絶から有利な条件を引き出すことが出来る人は、奥ゆかしいまでの無頓着さと紳士のような気楽さでもって、あらゆることに対処することになります。そういった人は、人生をささやかな楽しみと大きな不安から成り立っている短くはかない厄介な状態とは考え

ず、悲しみは束の間のことで、喜びは不朽のものだという全く別の見方をします。死に対する考えも、楽しみとしているすべてのことを放棄することになるという暗澹たる悲しい考えではなく、果てしない昼の後に訪れる束の間の夜と考えるのです。私がここで主張したいことは、徳高い人であればあるほど、その人は自然に上品で好ましい人物に近づくということなのです。財産の豊かな人は表情にゆとりがあり、振舞いには自信があります。貧しく困窮している人にはこれは望めません。精神状態の場合がそうなのです。理性と分別という永久不変の規則を判断基準に据えている人は、言動には言うに言われぬ奥ゆかしさが漂いますので、いかなる人生の出来事でも彼には対応出来るのです。周囲の人々や事物の変化は彼の状況には一切関係なく、他人が気を散らす出来事に関心を寄せることはありません。なぜなら、彼にとって人生の最大の目的は、人生および人生の楽しみに無頓着さを保ち続けることだからです。要するに、立派な紳士とは寛大で勇敢な人物のことなのです。絶えず上機嫌で異彩を放っているためには、いわゆる失望させられないものに裏打ちされること、そして降りかかってくるものはどんなものでも最良のことだと信じること、でなければ頼り甲斐がなければ自分には降りかかっていることがなかったのだと信じることです。